

優秀賞

スイッチ。

大阪府 宮崎 匠

ロッカーの前でいつものクラスの友達と会う。そこで僕はいつものスイッチが入る。心のスイッチだ。そのスイッチが入ると僕はついさっきまでの後ろ向きな自分が消えて明るい自分が体に乗っ取る。無理して明るいふりをする自分が。

そうやって僕は学校での自分と家での自分を使い分けている。学校ではみんなと仲良くやれて、できるだけ嫌われないように、家ではやる気をぬいて明日に備える。ところが友達と仲良くやることを考えすぎた僕は、いつからか無理をしてでも話題を見つけてしゃべるようになっていった。そんな話で盛り上がるはずもないからよけいにあせる、なんて事がしばしば起こってきている。考えも自分を押し殺してでも他人を優先するようになった。そんな風になってから僕は、自分が徐々に失われていっている気がしていた。そんな何ともいえない脱力感の中、何となくつけたラジオから流れる数々の曲を、ただぼーっと聞いていた。しかし淡々と色んな曲を聞いているうちに、僕の悩んでいる事が全く小さな事に思えてきた。そもそも本当の自分なんて一つとは限らない。家でぼーっとしている僕も、学校で無理にテンションを上げようとしている僕も、友達から嫌われる事にびくびくしてる僕も、きっとすべて本物の自分だ。ならばもういっそのこと、他人の事を優先しまくろう。でもどうしてもゆずれない事は絶対に守りぬこう。その時僕は、毎朝ロッカーの前で ON になるスイッチとは別の、もっと大きなスイッチが入った気がした。